

巻頭言

「日伯交流年にあたって」

島内 憲

あけましておめでとうございます。皆様におかれては健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年は 1908 年の笠戸丸出航から始まる日本人ブラジル移住の 100 周年です。日伯首脳間の合意により 2008 年は日伯交流年と定められており、様々な記念行事が両国で行われます。6 月に皇太子殿下がブラジルを御訪問されるのをはじめ、日伯両国の要人による相互訪問が年間を通じて計画されています。数多くの文化・スポーツ・学術交流のほか、記念硬貨・切手の発行等のイベントもめじろおしです。また、日伯交流年を契機として、上昇基調にある両国経済関係が一層力強く進展することも期待されています。

ブラジルは政治的安定、経済的発展を実現し、ルーラ大統領の言葉を借りれば、「共和制下最良の時」にあるといえます。民主的政治制度の定着、民族・宗教的な国内対立がないこと、更には安全保障やテロの脅威に直面していないこともあり、国内的安定が達成されています。経済面では、90 年代後半からの改革努力が実を結び、好調な世界経済と一次産品価格の上昇にも支えられて上昇傾向にあり、GDP は世界第 10 位の地位を占め、07 年の経済成長率は年率 5%に達するとの観測もあります。豊かな自然、恵まれた気候、世界有数の農業生産、豊富な天然資源に加えて、



講演会「日系社会と日伯関係」で講師を務める筆者
(2007 年 12 月 17 日、ラテン・アメリカ協会主催)

最近では巨大深海油田発見のニュースまで報じられ、ブラジル人がしばしば用いる「神はブラジル人に違いない」との常套句すら肯けるような状況です。

こうした政治・経済的進展を踏まえてブラジルは国際場裡でも存在感を高めており、国連安保理改革、WTO ドーハラウンド、気候変動といった国際社会の重要課題において主要な役割を果たしているほか、南米、さらにアジア、アフリカ諸国との協力関係を背景として、途上国のリーダー、更には世界の主要国の一員としての地位を確立しています。

このように政治的・経済的安定を達成したブラジルと日本の関係は、04、05 年の両首脳相互訪問を経て急速に再活性化しており、第二次世界大戦前・戦後の移民ブーム、1960～70 年代にかけての投資ブームに続き、第三の

波とも呼ぶべき上昇機運にあります。

現在の日伯関係の特徴として、伝統的な相互補完関係をを超えて、対等な関係に基づくパートナーシップ型の協力が様々な面で進行していることがあげられます。経済面では、水平な協力関係に基づく高付加価値志向の取組みが進んでおり、経済関係の高度化や双方向化が図られています。日本方式のデジタルTV システム採用と周辺諸国への日伯共同での働きかけはその最たる例ですが、エンブラエル製航空機の日本進出やペトロブラス社による日系精油所買収、更にはエタノール供給への日本企業の参画も新たな経済パートナーシップを象徴する出来事です。政治面でも、両国は国連安保理改革において常任理事国入りを目指す盟友であり、気候変動、WTO ドーハラウンド、更には軍縮・不拡散といったグローバルな課題への対応でも両国は緊密な協力関係にあります。



デジタルテレビ日伯共同作業部会第3回会合
(12月3日～5日、於:ブラジル)

こうした新たなパートナーシップが進展する一方で、その根底には農業開発への貢献に代表される日系移民の活躍や、「ナシヨナ

ルプロジェクト」等の経済・技術交流を通じてブラジル人の間に育まれた日本人への伝統的な信頼感が脈々と息づいていることを忘れるわけにはいきません。「勤勉」、「正直」、「信頼できる」として日本人はブラジルで高く評価されています。21世紀の国際社会を担う大国ブラジルに世界最大150万人の日系人社会が存在し、日本人への高い評価が根付いていることは言うまでもなく日本にとって大きな外交資産です。この貴重な資産を上手に活用しつつ、次世代へ着実に引継ぐことは我々に課された使命であります。

両国関係が上昇機運にある中で迎える日伯交流年は、先人の努力と苦勞に感謝しつつ、両国関係を飛躍的に強化する絶好の機会です。両国が相互に頼れるパートナーであり続けるには、過去の資産を基盤としつつ、従来のステレオタイプにとらわれることなく、両国関係の実態を適切に反映した水平かつ対等なパートナーシップを新たに築き上げることが重要です。

日伯交流年の機会にブラジル大使を務める幸運に感謝しつつ、拡大基調にある日伯関係を一層進展させることを通じて、相互に頼りがいのあるパートナーとしての新たな基盤を築くことが私の務めであると考えております。

日伯交流年の成功に向けたみなさまの御理解と御協力をお願い申し上げます。

(しまのうち・けん 駐ブラジル日本国大使)